

<特集「否定、形容詞と連体修飾複文」>

タタール語における否定、形容詞と連体修飾複文  
Negation, Adjectives and Compound Sentences of Adnominal Modification in Tatar

菱山 湧人  
Yuto Hishiyama

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿の目的は、特集「否定、形容詞と連体修飾複文」(『語学研究所論集』第23号, 東京外国語大学)における33個のアンケート項目に対するタタール語のデータを与えることである。

**Abstract:** This report aims to provide the Tatar data which answers the thirty three survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 23, which focuses on the cross linguistic study of ‘negation, adjectives, and compound sentences of adnominal modification’.

**キーワード:** タタール語、否定、形容詞、連体修飾、複文

**Keywords:** Tatar, negation, adjective, adnominal modification, compound sentence

タタール語はチュルク諸語の北西(キプチャク)語群に属する言語である。チュルク諸語は膠着型言語であり、基本語順はSOV、修飾語―被修飾語の順序をとるのが基本である。タタール語はキリル文字に基づいた正書法を持つが、本稿の例文はラテン文字に転写して示す。コンサルタントは1992年ロシア連邦タタールスタン共和国カザン生まれの女性である。日本語を解するため、調査は日本語の例文を直接タタール語に訳してもらった形で行った。

(1) 「これは私の本ではない。」[名詞述語文/コピュラ文の否定]

Bu kitap mineke tügel.  
this book mine COP.NEG

(2) 「この部屋には椅子がない。」[存在文の否定]

Bu bülmä-dä urındıq yuq.  
this room-LOC chair there.isn't

(3) 「この部屋には一つも椅子がない。」[全部否定・モノ]

Bu bülmä-dä ber urındıq ta yuq.  
this room-LOC one chair EMPH there.isn't



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed/ja>

- (4) 「その部屋には誰もいない。」[全部否定・ヒト]

Bu bülmä-dä berkem yuq.  
this room-LOC no.one there.isn't

全部否定は、「1」にあたる *ber* と、日本語の「も」にあたる *DA* によって表される。(4) のように、*DA* が現れないこともある。*berkem* は *ber* 「1」と *kem* 「誰」から成っている。

- (5) 「その本はこの部屋にない。」[所在文の否定]

Šul kitap bu bülmä-dä yuq.  
that book this room-LOC there.isn't

- (6) 「この犬は大きくない。」[形容詞文の否定]

Bu et zur tügel.  
this dog big COP.NEG

形容詞文の否定も、名詞述語文／コピュラ文と同様に否定辞 *tügel* によって表される。

- (7) 「この犬はあまり大きくない。」[形容詞文の部分否定]

Bu et šulay uq zur tügel.  
this dog so EMPH big COP.NEG

- (8) 「この犬はあの犬より大きい。」[比較級]

Bu et tege et-tän zur-raq.  
this dog that dog-ABL big-COMP

- (9) 「この犬がその犬たちの中で一番大きい。」[最上級]

Bu et šul et-lär-nej ara-sin-da iñ zur.  
this dog that dog-PL-GEN interval-3SG.POSS-LOC most big

- (10) 「今日はあの人は来ない。」[自動詞文の否定]

Bügen tege keše kil-miy.  
today that person come-NEG.PRS

- (11) 「あの人はその本を持って行かなかった。」[他動詞文の否定]

Tege keše bu kitap-ni al-ıp kit-mä-de.  
that person this book-ACC take-CVB leave-NEG-PST

- (12) 「全ての学生が参加しなかった／学生は全員参加しなかった。」[数量の全部否定]

Böten uquči-lar qatnaš-ma-dı.  
all student-PL participate-NEG-PST

- (13) 「全ての学生が参加したわけではない。」[数量の部分否定]

Böten uquči-lar qatnaş-qan dip äyt-ä al-miy-m  
 all student-PL participate-PTCP.PST QUOT say-CVB take-NEG.PRS-1SG

直訳すると、「全ての学生が参加したと、(私は) 言うことはできない」となっている。

- (14) 「(私は)買わなかった。しかし、決して) 値段が高いというわけではない。」[文の否定]

(Min sat-ıp al-ma-yan bul-sa-m da,)  
 1SG sell-CVB take-NEG-PTCP.PST be-COND-1SG although  
 bäyä-se qıybat dip äyt-er-lek tügel.  
 price-3SG.POSS expensive QUOT say-PTCP.FUT-IEK COP.NEG

直訳すると、「値段が高いと言うほどではない」となっている。

- (15) 「走るな！」[禁止]

Yöger-mä!  
 run-NEG.IMP.2SG

- (16) 「大きな声を出すな！」[他動詞文の禁止]

Tawışlan-ma-ÿz!  
 be.noisy-NEG-IMP.2PL

タタール語で「大きな声を出すな」にあたる表現（例えば、先生が子供たちに対して静かにするよう注意をするような場合に用いられる）は、自動詞 *tawışlan-*「騒ぐ」の否定命令形によって表される。そのため、これは「他動詞文の禁止」の用例ではない。「他動詞文の禁止」の用例としては、以下のようなものがある。

- (16b) 「タバコを吸うな！」

Tämäke tart-ma!  
 tobacco smoke-NEG.IMP.2SG

- (17) 「明日は雨は降らないだろう。」[推量の否定]

Irtägä yañyır yaw-mas=tır.  
 tomorrow rain rain-NEG.INDEF.FUT=MOD

不定未来形の否定形 *-mAs* のみによっても推量の否定は表されうるが、上の例では推量のモダリティを表す接語=*DEr* も現れている。

- (18) 「あの人に聞こえないように、小さな声で話してくれ。」[目的節の否定]

Tege keşe işet-mäs öčen şipirt qına söyläş.  
 that person hear-NEG.INDEF.FUT so.that quiet only talk.IMP.2SG

- (19) 「私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない。」 [否定のスコープの調節]

Min šul süz-ne sine ačuwan-dır-ır öčen äyt-mä-de-m.  
1SG that word-ACC 2SG.ACC get.angry-CAUS-INDEF.FUT so.that say-NEG-PST-1SG

- (20) 「私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？」 [内の関係の連体修飾節・目的語]

Min kičä sat-ıp al-yan kitap qayda mikän?  
1SG yesterday sell-CVB take-PTCP.PST book where Q.MOD

タタール語で内の関係の連体修飾節・目的語はいくつかの構造で表されうるが、上の例では主格主語と形動詞、主語を表す所属人称接辞が付いてない主要部名詞からなる構造で表されている。タタール語ではこれが最も一般的な構造である。

- (21) 「その本を持って来た人は誰（か）？」 [内の関係の連体修飾節・主語]

Bu kitap-nı al-ıp kil-gän keşe kem?  
this book-ACC take-CVB come-PTCP.PST person who

- (22) 「この部屋が私たちの仕事をしている部屋です。」 [内の関係の連体修飾節・場所]

Bu bülmä bez eš-ebez-ne ešliy torıyan bülmä ul.  
this room 1PL work-1PL.POSS-ACC work.PTCP.PRS room EMPH

内の関係の連体修飾節・目的語と同様の構造で表される。*ešliy torıyan* は *work-CVB stand-PTCP.PST* のような分析的な構造となっているが、現代タタール語文法で *-Aş torıyan* は現在の形動詞とするのが一般的である。

- (23) 「足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった。」 [内の関係の連体修飾節・所有者]

Ber ayay-ı sın-yan tege urındıq-nı min taşla-dı-m inde.  
one leg-3SG.POSS be.broken-PTCP.PST that chair-ACC 1SG throw.away-PST-1SG already

内の関係の連体修飾節・所有者は、所有物-3SG.POSS を主語とする構造によって表される。

- (24) 「ドアを叩いている音が聞こえる。」 [外の関係の連体修飾節]

Išek-ne qay-uw tawış-ı išet-el-ä.  
door-ACC knock-VN sound-3SG.POSS hear-PASS-PRS

外の関係の連体修飾節を表す構造の一つに、動名詞節+名詞-3SG.POSS がある。上の例では、誰がドアを叩いているか（動名詞節の主語）は標示されておらず、「ドアを叩く音」という一般的な音の性質が表されている。

- (25) 「あの人が結婚したという噂は本当（か）？」 [外の関係の連体修飾節]

Tege keşe öylän-gän digän yäybät döres mikän?  
that person marry-PRF QUOT rumor right Q.MOD

外の関係の連体修飾節は上のように、内容節+「という」にあたる *digän*+名詞という構造でも表される。*di-gän* は形式的には *say-PTCP.PST* である。

(26) 「私はその人が来た時にご飯を食べていた。」 [時間節]

Tege keşe kil-gän-dä, min aša-p utir-a ide-m.  
 that person come-PTCP.PST-LOC 1SG eat-CVB sit-PRS COP.PST

時間節「～したときに」は、過去の形動詞＋位格によって表される。タタール語では過去の形動詞に人称が付くのはまれであり、節の主語も多くの場合主格で現れる。

(27) 「私はその人が待っている所に行った。」 [場所節]

Min tege keşe köt-ep tor-yan urin-ya bar-di-m.  
 1SG that person wait-CVB stand-PTCP.PST place-DAT go-PST-1SG

内の関係の連体修飾節・場所と同様。

(28) 「私はその人が走っていったのを見た。」 [補文節・視覚]

Min tege keşe-neŋ čap-qan-ï-n kür-de-m.  
 1SG that person-GEN run-PTCP.PST-3SG.POSS-ACC see-PST-1SG

タタール語で補文節はいくつかの構造で表されるが、上の例のように属格主語と、非定形動詞＋節の主語を示す所属人称接辞からなる構造が一般的である。視覚・聴覚・知識の別は主節述語によって表される。

(29) 「昨日の夜、私は彼らがしゃべっているのを聞いた。」 [補文節・聴覚]

Kičä kič belän min alar-niŋ söyläš-üw-läre-n išet-te-m.  
 yesterday at.night 1SG 3PL-GEN talk-VN-3PL.POSS-ACC hear-PST-1SG

(30) 「私はその人が昨日ここに来たことを知っている。」 [補文節・知識]

Tege keşe kičä monda kil-gän-e-n min bel-ä-m.  
 that person yesterday here come-PTCP.PST-3SG.POSS-ACC 1SG know-PRS-1SG

上の例のように、主格主語と所属人称接辞の付いた主要部からなる補文節も見られる。

(31) 「(昨日) 彼は彼が今日ここに来たと言った。 / (昨日) 彼は、『私は今日ここに来た』と言った。」 [補文節・直接発話／間接話法]

Ul bügen üz-e-neŋ monda kil-gän-e-n äyt-te.  
 3SG today REFL-3SG.POSS-GEN here come-PTCP.PST-3SG.POSS-ACC say-PST

“Min bügen monda kil-gän ide-m” dip äyt-te ul.  
 1SG today here come-PRF COP.PST-1SG QUOT say-PST 3SG

前者は上位節と同主語の補文節である。補文節中の主語は属格の再帰代名詞、述部は過去の形動詞によって表されており、いずれも主語の人称を示す所属人称接辞をとっている。

後者は直接話法の表現で、日本語の「と」に相当する *dip* が用いられている。*di-p* (もしくは *diy-ep*) は形式的には *say-CVB* である。

(32) 「私はリンゴが (あの) 皿の上にあったのを食べた。」 [内在節・従主・主主]

Min tege tālinkā-dā yat-qan alma-nī aša-dī-m.  
 1SG that dish-LOC lie-PTCP.PST apple-ACC eat-PST-1SG

日本語の内在節はタタール語では連体修飾節で表される。上の例は直訳すると「私は皿の上にあったリンゴを食べた」となっている。

(33) 「私はネコが家に入ってきたのを捕まえた。」 [内在節・従主・主目]

Pesiy öy-gä ker-gän-e-n kūr-de-m.  
 cat house-DAT enter-PTCP.PST-3SG.POSS-ACC see-PST-1SG

上の例は直訳すると「私は猫が家に入ったのを見た」となっており、補文節が用いられている。「見た」という動詞に変えた理由をコンサルタントは、『猫』を捕まえることはできるが、『猫が入ってきたこと』を捕まえることはできないため」だとした。(33) の日本語の意味は、「家に入ってきた猫を捕まえた」という連体修飾節を用いた構造によって表される。

(33b) 「私は家に入ってきた猫を捕まえた。」

Min öy-gä ker-gän pesiy-ne tot-īp al-dī-m.  
 1SG house-DAT enter-PTCP.PST cat-ACC catch-CVB take-PST-1SG

#### 略号一覧

1, 2, 3		1, 2, 3 人称	PASS	passive	受身
ABL	ablative	奪格	PL	plural	複数
ACC	accusative	対格	PRF	perfect	完了
CAUS	causative	使役	PRS	present	現在
COMP	comparative	比較	PST	past	過去
COP	copula	コピュラ	POSS	possessive	所有
CVB	converb	副動詞	PTCP	participle	形動詞
DAT	dative	与格	Q	question	疑問
EMPH	emphasis	強調	QUOT	quotative	引用
FUT	future	未来	REFL	reflexive	再帰
GEN	genitive	属格	SG	singular	単数
IMP	imperative	命令	VN	verbal noun	動名詞
INDEF	indefinite	不定	-		接辞境界
MOD	modality	モダリティ	=		接語境界
NEG	negative	否定			

執筆者連絡先: boltwatts@gmail.com

原稿受理: 2019年5月6日